

| 一次研究用フォーム | | データ記入欄 | |
|------------|---------------|---|------------|
| 基本情報 | 対象疾患 | 乳房外パジェット病 | |
| | タイプ | 臨床専門情報 | |
| タイトル情報 | 論文の英語タイトル | Sentinel lymph node biopsy in patients with extramammary Paget's disease. | |
| | 論文の日本語タイトル | 乳房外パジェット病におけるセンチネルリンパ節生検 | |
| 診療ガイドライン情報 | ガイドラインでの引用有無 | 1.有り 2.無し (1) | |
| | ガイドライン上での目次名称 | PagetCQ7-3 | |
| 書誌情報 | 研究デザイン | I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I V) | |
| | Pubmed ID | 15458530 | |
| | 医中誌 ID | | |
| | 雑誌名 | Dermatol Surg. | |
| | 雑誌 ID | | |
| | 巻 | 30 | |
| | 号 | 10 | |
| | ページ | 1329-34 | |
| | ISSN ナンバー | 1076-0512 | |
| | 雑誌分野 | 1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1) | |
| | 原本言語 | 1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2) | |
| | 発行年月 | 2004 Oct | |
| 著者情報 | | 氏名 | 所属機関 |
| | 筆頭著者 | Hatta N | 金沢大学医学部皮膚科 |
| | その他著者 1 | Morita R | |
| | その他著者 2 | Yamada M | |
| | その他著者 3 | Echigo T | |
| | その他著者 4 | Hirano T | |
| | その他著者 5 | Takehara K | |
| | その他著者 6 | Ichiyanagi K | |
| | その他著者 7 | Yokoyama K | |
| | その他著者 8 | | |
| | その他著者 9 | | |
| | その他著者 10 | | |

| | | | |
|------------|---|--|---------------------|
| 一次研究の 8 項目 | 目的 | 乳房外パジェット病におけるセンチネルリンパ節生検の意義を調べる | |
| | 研究デザイン | 後ろ向きコホート研究 | |
| | セッティング | 金沢大学医学部附属病院皮膚科 | |
| | 対象者 | 13 人の外陰部乳房外パジェット病患者 | |
| | 対象者情報 (国籍) | 1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (1) | |
| | 対象者情報 (性別) | 1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3) | |
| | 対象者情報 (年齢) | 1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15) | |
| | 介入 (要因曝露) | 介入なし | |
| | エンドポイント (アウトカム) | エンドポイント | 区分 |
| | 1 | | 1.主要 2.副次 3.その他 () |
| | 主な結果 | センチネルリンパ節生検を施行した 13 例中 4 例で転移がみられ、そのうち 3 例は遠隔転移により死亡した。生検で陰性だった 9 例は観察期間中再発がなかった。 | |
| | 結論 | 乳房外パジェット病の治療においてセンチネルリンパ節生検は有用であることが示唆された。 | |
| | 備考 | | |
| | レビューワー氏名 | 八田尚人 | |
| レビューワーコメント | エビデンスのレベル分類 (IV) 乳房外パジェット病の治療にセンチネルリンパ節生検を用いた非比較研究としては最初の報告である。生検の適応や、陽性例における郭清術などの追加治療が予後を改善するかに関する研究がないので、センチネルリンパ節の有用性を結論づけることはできない。しかし、13 例と少数ではあるが、生検結果が予後とよく相関していることから、センチネルリンパ節の予後予測における有用性は認められる。本研究はセンチネルリンパ節生検がステージングの難しい例における判断材料になりうるという点で、有用であると考えられた。症例数は少ないが、比較的まとまった症例数を長期に詳細に検討しており、かつ本症の報告例が少ないことを勘案し、コホート研究に準ずるものと評価した。 | | |